

# 地域支援部だより

宮城県立石巻支援学校

令和4年2月14日発行



## 居住地校学習「間接交流」、充実した取組になりました！

今年度の居住地校学習は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、間接的な交流を行いました。

小・中学部のたくさんの児童生徒が、居住地にある学校の子供たちと手紙や作品等を通して交流しました。間接交流も2年目となり、直接会って関わる活動はできませんでしたが、受入校の友達と、お互いのことを思う気持ち、次はきっと会いたいという気持ちでつながっていることを再確認することができました。また、今年度は初めて交流を行う児童生徒が増えました。直接会えなくても、同じ居住地に住む本校の児童生徒について知り、関心を持って理解してもらう良い機会になったようです。保護者の皆様には御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。



現在の状況では次年度も直接交流ができるか分かりませんが、間接交流であっても地域の子供たちとの関わりが継続でき、交流の実感が持てる取組になるよう更に工夫して実施したいと思います。

**居住地校学習は、共に学び共に育つ共生社会を作っていくために、とても大切な活動です。**子供たちが「**地域の中で、みんなと一緒に**」生活する、過ごしやすい社会にしていけるため、地域

とのつながりをこれからも持ち続けていただければと思います。

小学部から中学部2年生のお子さんには、個別面談後に、次年度に向けて希望調査を配布します。継続して実施すると効果があるようです。また、今年度は実施しなかったお子さんも、次年度は是非挑戦してみしてほしいと思います。御不明なことや不安なことなどありましたら、担任を通じて御相談ください。



中学部棟1階の  
居住地校学習紹介コーナー

## 「間接交流」で、こんな良かったことがありました！

### ～担任の声～

#### <小学部>

- ☺ 受入校に手紙等を届けに訪問した際、「直接交流での活動や、間接交流で持参した紹介シートで名前を覚えていましたよ。」などと受入校の児童たちが本校の児童を意識してくれていることが分かり、うれしかったです。
- ☺ 本校の児童について視力が弱いことを話したところ、触って楽しめる手紙やプレゼントをたくさんいただき、受入校の児童たちの工夫や努力が感じられました。保護者もとても喜んでいました。
- ☺ どの受入校も歓迎してくれました。本校の児童が作品や手紙を制作した様子に、熱心に耳を傾けてくれました。間接交流も2年目ということもあり、自然に「お返事送りますね。」と言っていました。間接交流でも、受入校の児童へのアピールになっていると思いました。どの受入校でも「児童が〇〇ちゃんに会えなくて残念がっていました。」という話を聞かせていただきました。

#### <中学部>

- ☺ 受入校の担当の先生は、間接交流を残念に思っており、コロナが落ち着いたなら是非直接交流をしたいと話してくださいました。
- ☺ 受入校へ間接交流のために生徒が制作した作品を届けた際に、担当の先生とお話ししました。受入校の先生も生徒たちも楽しみに待っていらっしゃった様子がうかがえました。コロナの状況でも丁寧に交流をしていく必要性を感じました。



☺受入校へ訪問した際に、生徒たちが本校の生徒を好意的に受け止めて、交流を楽しみにしていると話してくださいました。また、次年度のことも、直接交流ができるときに、双方の事情を踏まえてより実際にできそうな活動についても話し合うことができました。

### ～受入校の先生方の声～

☺いただいたメッセージや写真を見せると、児童は2年生の頃の交流を覚えており、歓声が上がりました。「元気かな?」「お返事の手紙の文字にふりがなを付けた方が分かりやすいよね。」「来年は会いたい。」と、友達同士で会話をしながら各々思いを持っていたようです。

☺初めての交流でしたが、事前に詳しく児童について教えていただいたので、本校の児童に様々なお話をすることができました。児童は「〇〇小の学区内に住んでいるんだね。」「会ったことあるかな?」と関心を持っていました。本校の2学期の様子を伝える作品作りの際も「喜んでくれるかな?」と交流する児童のことを思いついて取り組んでいました。

☺児童たちはいただいた自己紹介シートに興味を持って見ていました。初めは、体のことについて疑問を持つ児童が多かったのですが、だんだんと同じ一年生で明るく頑張っていることに気付いていきました。是非一緒に遊びたかったと言う児童もいました。

☺〇〇君の自己紹介の掲示物を見てとても喜び、直接交流できないことを残念がっていました。心を込めてメッセージを書き、「〇〇君、喜んでくれるかな?」と話していました。

## 専門性向上研修会

### 「自閉症スペクトラムとこだわり行動への対処法 ～本校の児童生徒の実態を加味して～」

講師：宮城学院女子大学教育学部教育学科 教授 白石雅一 氏

自閉症スペクトラムや、その特性として見られるこだわり行動について、理解や対処の仕方を学び、指導や支援に生かしたいというニーズは、本校のみならず、石巻圏域の教育現場、福祉関係機関の方々から多数寄せられています。教職員や支援者が学ぶ機会として夏休み中に研修会を企画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により実施できず、感染状況が落ち着いてきた11月下旬に本校の教職員を対象に実施しました。

講師の先生は宮城学院女子大学教授の白石雅一氏で、自閉症への専門性が高く、障害児への支援や支援者支援の実践が豊富な先生です。実践例を交えて動画やスライド等を用いながら分かりやすく御講演をいただき、たくさんの御示唆をいただきました。



#### <講師の白石雅一先生の言葉から>

##### こだわりを強みとして生かす

こだわり行動の「変えない・やめない・始めない」は、やり取りを通して少しずつ穏やかに変化を加えていく。こだわり行動を推奨したり放任したりせず、広がりや活用の道を探る。こだわりを上手く使って、好きなものを生かした簡単な課題に応じ、少しずつ広げていく。  
**こだわり行動は人が関わって導いてこそ強みになる。**

##### 人との関係作りが第一

支援者がこだわりを大事に保証することで、共感を広げ、心を許す。好きなもの（こだわり）を生かした課題の提示から始め、応じられたことを大いにほめる。次第に「応じるからほめてほしい」モードになる。簡単な課題で応じてもらい、ほめて自信につなげる。

地域支援部では、就学や学習、生活上で困っていることなど様々な相談に応じています。校内の支援室に担当の職員（地域支援コーディネーター）がおりますので、保護者の方も相談したいことがありましたら、どうぞ身近な相談者としてお話しください。一緒に困っていること、不安なこと、対応の仕方などを考えるお手伝いをさせていただきます。 担当：地域支援コーディネーター 須田幸子 及川美和